

桜蔭俳話会 四月句会 (第三三四回)

平成二十七年四月二十六日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 4点①花疲れ私そろそろ深海魚 才美  
 4点 錠剤の転がる先や花筵 幸  
 3点 五ミリとて姿はたしか木の芽吹く ツル子  
 2点②懐に密書としたり花ひとひら 才美  
 2点①羊の毛刈るバンジョーのリズムかな 守  
 2点 竹の子や産地の名札どんとつけ ツル子  
 1点①若き日のままのユーモア春うらら 友子  
 1点①何もかも忘れて今日のこの桜 守  
 1点①春眠をむさぼる齡過ぎにけり 友子  
 1点①異国語の高き声音や花あんず ヤエ子  
 1点 空つぼの公園春の真昼どき 弘子  
 1点 数値高し酒は少しよ弥生尽 ヤエ子  
 1点 ス克蘭ブル発進つづく建国日 明美  
 1点 むべの花ごついお爺の育てをり ヤエ子  
 1点 苜蓿子等の笑顔や首飾り 邦子  
 1点 春の航男子二人の乗馬服 明美  
 1点 子の遊ぶ丘をまあるく花の風 才美  
 1点 起きて良し寝て良し今日の暖かさ 邦子  
 1点 民衆の憲法論議木の芽張る 明美  
 1点 万歩計朧月夜で数見えず 眞壽  
 1点 春深し雀の鉄砲有つたはず 弘子  
 1点 駅頭の客寄せポニー春の雲 明美  
 1点 八重椿己が重さに耐へきれず 友子  
 1点 数珠玉に落花ただよふ墓参り 邦子  
 1点 母の背に花くたびれの匂ひかな 邦子  
 1点 寄港船なき栈橋や五月晴 幸  
 1点 花にらや医院へ続く細き道 ヤエ子  
 1点 ひと一人さらふつもりの花の渦 才美  
 1点 桜愛で来し方想う日暮れ時 眞壽  
 1点 庭ごとの色あふれさせ春の風 弘子

※ 飛花落花停まるベンツの花模様

- 友子  
 老木が僅かに花を咲かす庭 眞壽  
 胃飾り彫る山毛櫨肌無垢の美し 幸  
 園児バス蝌蚪持つ袋のゆれてをり 幸  
 新緑の洗われてをりよべの雨 弘子

- 和三盆知らぬ己に春近し 眞壽  
 定期券売場の列や万愚節 ヤエ子  
 春月の呑み屋非正規労働者 守  
 喜びを笑ひに流す四月馬鹿 邦子  
 桜咲く三春の滝に打たれたし ツル子  
 バスケットボールのポスト燕の子 守  
 駿河路の夏柑たわわ艶のあり 幸  
 閉ぢられし原発ゲート杉花粉 守  
 新緑の足場外れし白き家 ツル子  
 大き一步花じゆうたんへ残りけり 友子  
 外つ国の言葉行き交ふ夕桜 ツル子  
 桜薬降る三千世界を紅に染め 才美  
 月探査計画始動建国日 明美  
 咲き揃う十二単に屈まりぬ 弘子  
 花散らし薄着こらえて酒を汲む 眞壽  
 (不在投句 恩田才美、古野明美)

〔事務局からお知らせ〕

○五月句会

五月三十一日(日)、野毛山動物園へ吟行します。詳細は、同封の案内をご覧ください。

○第一一七回通信句会作品募集

春に属する季語を用いた三句。締切りは、五月十日(日)厳守。同封の葉書でお送りください。